

中国では1953年建国以来、5年毎に自国発展のための5ヵ年計画を実施され、今年は新たに「第13次5ヵ年計画」が実施される予定です。

これまでの急速な発展から安定成長を目的とする、「量より質」を追求する方針のようです。今後のシニア産業に欠かせない養老保険と施設整備に注目しています。

中国はこれまで、「先富論」に基づく地域格差や、それに伴う「未富先老」・「未備先老」等、多くの問題を抱えながらアンバランスな成長を遂げてきています。まず養老保険では、2014年末時点で年金加入者は都

いよいよ第13次5ヵ年計画開始

市部農村部を含め、8億4000万人超。全人口の62%に達し、年々普及率も高くなっています。

一方、受給金額を見ると都市部と農村部での月額平均受給差は約20倍以上。ちなみに1人当りの農村部差が約2・7倍です。農村部では受給金額が低いうえ家族援助もさほど望めません。

次に施設整備、全国の養老ベッド数は高齢人口の4%程度となっているが、空床率は40%以上。これらの要因は中所得者層以下の受入れ施設や身体状況等様々なニーズを想定した多種多機能施設の不足だと思えます。

現地駐在目線の中国シニア産業課題

近年、短期入所や通所型、社区等施設は増えてきましたが、専門性に乏しく、体制不十分な印象を受けます。

以上の事を考える

と、今回の新たな5ヵ年計画において私個人の期待としては、農村部保険加入率の底上げや補助金政策、そして、施設多様化を目的とした専門的人材育成や雇用安定確保案等、一部の富裕層だけでなく、誰もが安心して利用できる、専門性の高い公共養老サービス実現に向けて

中国の高齢者マーケット



ゲストハウス社長
松山英樹

～介護・不動産事業の行方～

著者プロフィール
ゲストハウス社長。2007年から高齢者住宅リボンシリーズを関西圏で展開。中国市場開拓を目指し、上海に中国シニア事業会社設立。

の具体的な取組みです。

2050年には107兆円とも言われている莫大なシニア市場に対応すべく、根本的解決案やそれらを加速させる外部要因が必要です。そして、その外部要因の一つである専門的知識や技術・育成ノウハウで私達は中国での成功を目指します。